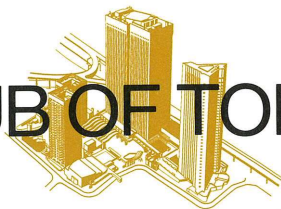




THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

ROTARY: MANKIND IS OUR BUSINESS

「ロータリー：人類が私たちの仕事」

2001～2002年度・国際ロータリーテーマ／リチャード D.キング会長

「ロータリーの心を伝えようー家庭に、職場に、地域にー」

2001～2002年度・東京新南ロータリークラブテーマ／大日方 真会長

本日の例会 2002年4月26日 第744回例会

卓話

「証券投資を伸ばすには」

株式会社東京証券取引所 代表取締役社長 土田正顕氏

先週報告 4月19日 第743回例会

◎国際奉仕委員会報告(島田委員長)

ロータリー財団年次寄付(P. H. F)へのご協力をお願いします。

◎慶事披露

100%出席／村山公士君(6君)、圓谷正和君(4年)、尾関武男君(2年)

◎出席報告

会員68名／出席38名・欠席30名(出席規定免除者9名) ビジター7名



4月19日／8件19,000円
2001～2002年度累計1,400,000円
多額の御寄付を有難うございました。

関征春／山川さん、先日は有難うございます。本日は卓話です。宜しくお願い致します。村山公士／6年皆出席のお祝い有難うございます。圓谷正和／4年皆出席祝い有難うございます。信じられない思いです。尾関武男／100%出席御祝い有難うございました。入沢頼二／春の親睦日帰り旅行、楽しい旅でした。関係者の皆様にお礼申し上げます。佐々木忠行／「春の親睦バス旅行」大変楽しませて頂きました。清原、青野両委員長、関係者の皆様、有難うございました。土屋東一／旅行欠席してしまい失礼しました。馬場一廣／皆様のご協力有難うございました。

次週5月3日(憲法記念日)は休会です

次々週予告 2002年5月10日 第745回例会

卓話予定

米山奨学生 党 偉 栄 さん

(東京工業大学大学院在学
国籍：中国)

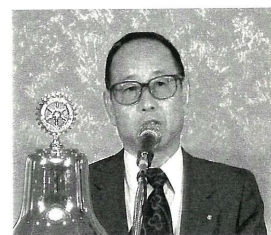
卓話

(4月19日例会)

「広告表現雑感」

(株)キャップ・クリエイティブ代表取締役
当クラブ会員 関 征春

企業あるいは商品と消費者を結ぶ広告制作は時代をどう捕らえるかが大切な要素です。私はこの広告制作はマーケティングであり、それはビッグウェーブ、つまり何年もかけて変わっていく実体の暮らしの上に成り立っていると思っています。



しかし、あらゆるものの変わるスピードが加速している現在、バランスや調和がとれなくてストレスが溜まっている時代だとも言われ、広告表現も何か推力を失っているようです。

暮らしの中にひそむ個人個人の潜在意識と時代との関係、博報堂が生活予報として18年前にまとめたものがあります。テーマはボーダレス。これは今も進行中の現象です。官と民、自然と人工、上と下、昼と夜、和と洋、公と私、外と内……などあらゆる境目が消えていっています。今は労使一体になって会社を守り、季節感のない野菜が出回り、偽物がどんどん売れる時代になっています。これを良いとか悪いとか評論するより、大きな人間文化の変化の一部として捕らえるのが私たちの広告表現の仕事なのです。

でも最近の銀行のネーミング、商品のネーミング(CI、BI)には理解に苦しむものもあります。どこかちぐはぐですが、これが現実です。

広告コピーからも時代の変化が見られます。

「アンテナ、アース無しで聞ける小型ラジオ」=商品情報。

「金曜日にはワインを」=生活提案情報。

「不思議大好き」=個人感覚情報。

「平和なようで平和じゃない」=社会的情報。

「結婚25年、子供の話はやめよう」「すこし愛してながーく愛して」=生き方情報。

そしていま「人生いろいろ」「クオークカード・スモークサーモン」のダジャレや、「あきらめましょう」「見えにくいから見たいのです」など、悲壮感漂うものまで出てきました。

TVや雑誌が暴露メディアになり、デジタル崇拜の生活感覚になってしまった今、より人間的な暮らしに変わるのにはまだまだ時間がかかりそうです。

第5回クラブ協議会

「新会員の期待にどう答えるか ―クラブ運営の活性化」

(と き) 4月19日(金) 例会後13:40～15:00

(ところ) 東京全日空ホテル B1F オーロラ

(出席者) 大日方、新保、村山、谷村、吉田(用)、尾関、尾上、岩上、四分一、庄司、島田、石坂、荻野、伯井、山根、西澤、青野、武下、吉岡、佐々木、小杉(眞)、関、小澁、圓谷

大日方会長の挨拶に続き、「RCに対する期待」というテーマで、若手会員から意見が述べられた。(岩上会員)RCの活動が内部に向き過ぎているのもっと外向きの活動が必要、「新南」という名称はもう変更してもいいのではないか、今の例会曜日は若手会員には出席しにくいので変更を検討して欲しい。(荻野会員)「めんぼう」は親睦に貢献している、環境保全委員会の「マンガで見る環境白書」は今後も継続して欲しい、卓話ではもっと古参、中堅会員の話を聞きたい。(伯井会員)RCで友人が増えたことに感謝、もっと先輩会員の話を聞きたい、会員数に比べて委員会の数や行事・企画が多過ぎるので見直しが必要ではないか。(尾関会員)時代の流れに応じてクラブ活動・運営の仕方を変えるべき、会員紹介の卓話をもっと聞きたい。(山根会員)例会主義に拘らず、flex time制や目的別集まりなども検討してはどうか、若い会員に対する配慮が欠けているように思える、もっと地域社会に溶け込んだやり方もあるのでは。(尾上会員)月末近くの金曜日は出席が厳しい、入会最初のうちは敷居が高いので、新会員に早くクラブに馴染んでもらうために新会員向けの委員会の設置はどうか。(圓谷会員)ロータリーに関わるコストを削減しe-mailなどで会員間の連絡を密に取るによりクラブ運営の活性化が図れるのではないか。

次に、上記新会員のクラブ運営の活性化に対する期待に対し、四大奉仕委員長が、それぞれ意見を述べた。(谷村クラブ奉仕委員長)例会にあまり出ず、メーキャップだけで100%出席と言うのもおかしい。出来る限り例会には出席すべきだ。卓話も、もっと当クラブ会員卓話を増やすべきである。親睦委員会の行事も多く、時間、費用も掛かり過ぎているとの意見が多いので、参加し易くなるよう纏める努力をしている。(青野職業奉仕委員長)新会員から沢山の意見が出されたが、ロータリーには変えて良いものと変えてはならないものがある。定款、細則、綱領を良く読んで理解した上で、変えた方が良いものは検討すべきである。綱領はロータリーの理念に当たるので、変えられないと思われる。(村山社会奉仕委員長)単年度の委員長では運営が難しい事もあるので、継続してやれば、仕組みを作ることも含め、効果が上がる場合もある。(島田国際奉仕委員長)活動は寄付のお願いの窓口的な事ばかりで、国際奉仕活動はどうあるべきかの結論は出ていない。委員長には、最近入会された海外経験者等の若手会員の選出も真剣に考えたほうが活性化に繋がるのではないか。最後に会長から、クラブ運営の変更については、会員の総意に基づいて行うので、規則に則って前向きに取り組む様にと言う纏めで終了した。

〔圓谷/小杉(眞) 記〕

企業倫理と経営者

職業奉仕委員長 青野信次

私達は社会を形成して、社会の一員として生きている。社会のモラルに反しては生きていけない。企業についても同じことが言える。

しかし最近、企業のモラルや倫理観の欠如が明らかな不祥事が相次ぎ、食品表示の信頼についてお客様に重大疑義を生じる事態となっている。単なる一企業の社会的責任にとどまることなく、食品業全体の信頼性を失墜させる社会問題となっている。

企業は経営者と社員と組織で成り立っている。組織の中ではややもすると個々人の考え、モラルは埋没するケースがある。そして時を経るにつれ、組織の独特な価値観が誕生する。

そこではその組織の価値観が個人の価値観に勝り、社会のモラルに反しても組織を守り、利益を上げることを最優先とする。反社会的だと反対すれば組織からはずされ、生活に困窮する。人間的行為に反することでも反対できない。自分さえよければ良い、儲かれば良い、という拙劣な価値観がそこには有る。

企業の目的は利潤の追求にあると言われるが、はたしてそれだけなのだろうか。社会に、お客様に、企業に、そして社員に幸福をもたらすのが企業ではないだろうか。企業の大小に関わらず経営者の判断基準として、損得勘定の前に人間の良心と社会モラルを第一義的に考えなければならない。

経営者の倫理観はそのまま企業と社員に反映する。現在のお客様は「食」の安全に関しては、倫理観の欠如する企業に対して厳しい審判を下す状況にあり、これに反する企業は撤退させられるといっても過言ではない。

関係法令の遵守や社会倫理に適合した企業倫理の確立は経営者の責務であり、それこそがお客様の信頼を得る第一歩であると思う。

「ロータリーの雑誌月間」とその目的

国際ロータリー(RI)の公式機関紙であるロータリアン誌「THE ROTARIAN」および各国で発行している地域雑誌(『ロータリーの友』など)の購読とその活用促進に役立つプログラムを行うのが「ロータリーの雑誌月間」である。雑誌に対する会員の認識を深め、それによってロータリー情報の普及をはかることが目的。

RIの初代事務総長チェスリー・ペリーによって創刊された公式機関紙『ザ・ロータリアン』の発刊日、1911年1月25日を記念して、当初は1月25日を含む1週間を「雑誌週間」としていたが、1978-79年度から「雑誌週間」は4月に移され、1983-84年度にすべての特別週間が特別月間となり、1984年から4月が「ロータリーの雑誌月間」に指定された。

RI公式地域雑誌とは

RIの地域雑誌の条件を満たし、RI理事会が指定した雑誌をRI公式地域雑誌という。

ロータリークラブの会員は、RIの公式機関雑誌(ザ・ロータリアン)またはRI理事会が承認した地域雑誌(『ロータリーの友』など)の有料購読者となり、会員であるかぎり購読を続けることを、会員身分保持の条件としなければならない(購読義務)と、標準ロータリークラブ定款第13条(『2001手続要覧』)および国際ロータリー細則第20条(『2001手続要覧』)に定められている。

東京新南ロータリークラブ [http://www.h3.dion.ne.jp/~newsouth]

〔会長〕大日方真 〔副会長〕谷村義雄 〔幹事〕新保國彦

〔会報委員長〕小杉眞史 〔今週の担当〕圓谷正和

事務局/〒107-0052 東京都港区赤坂2-19-8 赤坂2丁目アネックス3階 TEL: 03-3505-5976 FAX: 03-3505-6004 new-south@h9.dion.ne.jp
例会日・例会場/毎週金曜日 12時30分 東京全日空ホテル 〒107-0052 東京都港区赤坂1-12-33 TEL: 03-3505-1111